

# 鹿島 軽井沢泉の里保養所

KX-FOREST KARUIZAWA

No. 05-090-2025作成  
新築、改修・保存  
その他

発注者	鹿島建設株式会社 開発事業本部	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO <sub>2</sub> 技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB			
設計・監理	KAJIMA DESIGN		E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携			
施工	鹿島建設		I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他			

## 次世代へつなぐ新たな保養所



宿泊棟

### 森の中の群像美、新技術への挑戦

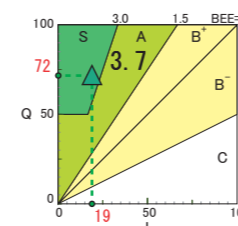
泉の里は軽井沢の離山の南斜面に位置し、泉からの湧水が小川や池を生み、多様な生物、植生が共生している。半世紀にわたり鹿島の施設として愛されたこの地に、次世代向けワーケーションやウェルビーイングを意識した新たな保養所が計画された。地形を活かしプライベート感ある14棟の宿泊棟と改修した共用棟を配置。諸室の雁行配置、連続するコーナーウィンドウ、平面計画に呼応した屋根形状が起伏に寄り添って並ぶ姿は森の中におけるひとつの群像美を創出している。

また環境配慮へも様々な取り組みを実施。CO<sub>2</sub>-SUICOMと3Dプリンターで構築した橋の設置、社有林活用による森林資源循環の促進、生物多様性保護などを推進しランドスケープに特化した国際的な環境認証制度「SITES」の最高ランク「プラチナ」を国内の宿泊施設として初めて取得。また、国土交通省が2024年度に創設した「優良緑地確保計画認定制度（TSUNAG）」の最高ランク「トリプル・スター」も取得した。



宿泊棟 平面図

宿泊棟 断面図

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価
所在地	BPI (モデル建物法) 0.49	Sランク
竣工年	BEI (モデル建物法) 0.64	BEE=3.7
敷地面積		2021年度版
延床面積		自己評価
構造		
階数		

### 社有林の活用

鹿島はグループ全体で全国約5,500haの山林を社有林として100年以上にわたり保有している。その維持管理を含めた森林資源循環の推進・取組みの一つとして福島県日影山山林のカラマツを宿泊棟の構造材に活用した。建設時にやむを得ず伐採した樹木も、樹種毎の特徴を活かし、外壁材や家具材等として再利用した。自社施設に社有林を活用することは、木材サプライチェーンの上流（山主）から下流（建設）までを一貫して行うだけでなく、伐採後に再び造林して育てる循環型の取組みとなる。



伐採木を活用した宿泊棟

家具等への活用

### 環境配慮への取り組み

本施設では既存の緑地や水辺空間等の自然を可能な限り保全活用し、地域の景観や生態系と調和した環境を創出する等、自然環境に配慮した様々な試みが評価された。また、敷地固有の課題を見つけるため、工事着工前の敷地調査から始まり、設計・施工段階から運営管理に至るプロジェクトの一連の過程において、持続可能な生態系保全を検証し環境負荷軽減ができていたことも評価された。



SITES認証プラチナ取得

TSUNAGトリプルスター取得



巣箱の設置

ムササビ等の巣箱設置

表層土壌を保全・再利用

地域固有ヘイケボタルの保護

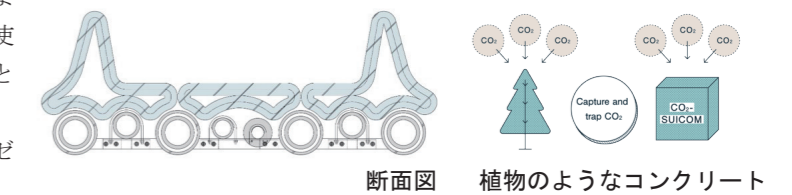
### CO<sub>2</sub>を吸収固定化するCO<sub>2</sub>-SUICOM<sup>®</sup>による橋の構築

鹿島が金沢工業大学と共同研究を行っているCO<sub>2</sub>-SUICOMを3Dプリンティングで形成する技術を用いて、敷地内の川に長さ7.0mの橋を構築した。この技術を人が通行する構造物に適用したのは初めてで、3Dプリンティングに依る自由度の高い造形の製造や生産性の向上を確認するとともに、CO<sub>2</sub>-SUICOMによる脱炭素社会の実現に向けた施工技術確立のための実証実験として取り組んだ。橋の断面形状はCO<sub>2</sub>を最も吸収しやすい厚さ60mmで作られ、更に荷重を効率よく受け流す形状とした。今回、この橋を構築するために使用されたCO<sub>2</sub>-SUICOMは約123kgのCO<sub>2</sub>を吸収固定化することに成功している。

\*：固まる過程でCO<sub>2</sub>を吸収・固定化しCO<sub>2</sub>排出量を実質ゼロ以下とする世界初のコンクリート



3DプリンティングによるSUICOM橋



### 設計担当者

統括：富士大健司/建築：佐々木智之、江島嘉祐、小池麻里子/構造：瀬戸裕、山元雄亮、小池奈津子、永島海人、浅野潤也/設備：村松和彦、谷口和信、中田圭介、大場優菜  
監理：加治佐徹、坂田正和、阪口正行、中村康隆、高澤静雄  
インテリア・家具デザイン：ILYA/ランドスケープデザイン：Landscape Design Inc./ライティングデザイン：有限会社 内原智史デザイン事務所

### 主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q3. 1. 生物環境の保全と創出（建設による植物の移植、種子が含まれる地表土壌の保護、巣箱設置による野生動物の生活環境の維持）
- LR2. 1. 水資源保護（水景環境の保全・修繕、雨水の敷地内浸透）
- LR2. 2. 非再生性資源の使用量削減（木造構造の採用、木製サッシの採用、敷地内伐採樹木の外壁等への活用）
- LR2. 3. 汚染物質含有材料の使用回避（F☆☆☆☆材料の使用）
- LR3. 1. 地球温暖化への配慮（二酸化炭素吸収コンクリートCO<sub>2</sub>-SUICOMの利用、敷地内土壌の敷地内処理・敷地外への運搬無し）

サステナブル建築事例集／一般社団法人日本建設業連合会  
※本事例シートおよび記載内容の二次利用を禁止します